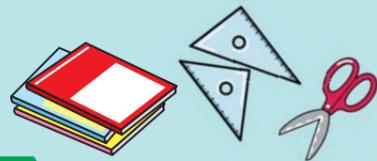


## 【8期生社会活動イベント】

卒業後の活動に備え11月から3月に実施した各学科の工夫を凝らしたイベントを紹介します。大勢ご来場頂き有り難うございました。



### 江戸川まちづくり学科 「健康まつり」

江戸川まちづくり学科8期生は、「健康まつり」～ひろげようまちに家庭に健康の輪～をテーマとして、企画イベントを実施しました。  
○食べて健康(栄養士さんのお話、健康料理についてグループで語り合う、おいしい料理レシピ紹介、飲酒度チェック等)  
○動いて健康(「虹の会いきいきクラブ」の皆様のご協力による気軽に健康体操、足つば健康チェック、やさしいヨガポーズ等)  
○話して健康(ティーカフェ 気軽にしゃべり、ごほう茶飲んで気分爽快、誰かに喋って気分スッキリ等)の3コーナーに分かれ、各コーナーで趣向を凝らし、来場者参加型のイベントを行いました。



ヨガポーズ

栄養士さんや「虹の会いきいきクラブ」の方々など外部の皆様にも協力いただき、イベント終了時には、参加された方々はとても晴れやかに(外は雨でした)清々しい表情でお帰りになりました。健康まつりの意義を感じました。

担当：大塚 恭子

### 国際コミュニティ学科 体験してみよう！国際交流「世界の文化を知ろう」

このテーマにクラス一丸となって動き出す。国際色を出すのに頭も体もフル回転。「ふれあい班」インド数学・世界のお茶・ゲームと内容豊富。「ステージ班」日本の伝承遊びを手で触れるよう展示。お手玉ゲームでは米寿の女性の手さばきに感動。アジア2カ国3名の方を囲んでのトークショー。外国語を交えた「数え歌」と「世界は一つ」を歌い、カンフー体操で終わる。参加者には手作りイベントを大いに楽しんでもらえたよう。



カンフー体操

ふりかえれば、企画から実践まで苦勞しながらも我々が楽しんでいた。だからこそ参加者にも2時間を納得して過ごしていただけたのではないか。このイベントで皆が心をあわせ行動した大変さが、参加者と共に楽しむ事になる事を経験できました。

担当：寺田 佳子

### 子ども・子育て応援学科 「子育て応援まつり」地域で子育てを！

『子育て応援まつり』と題して、子育て講座や座談会をはじめとし、輪投げ、工作、折り紙、お絵かき、フェイスペイント、カルタ、ロープワーク、新聞紙ビリビリ遊びなど、クラス皆のアイデアや工夫をちりばめた多彩な催しを行いました。



新聞紙ビリビリ遊びで

講師の西村先生や事務局の方々のお力も借りて、直前まで皆でチラシやプラカードで宣伝し、92名のお客様が来場！親子参加も多く、子どもたちの歓声湧き上がる、にぎやかで楽しいイベントとなりました。  
「子ども支援のボランティアは楽しい」改めてそう感じました。来場頂いた皆様にもそんな楽しい雰囲気伝わって、子育て応援ボランティアをやってみようという方が増えたらうれしいです。

担当：佐久間 鐵雄 / 大西 奈津女

### 介護・福祉学科 「春だよ！ふれあい体験ひろば」

3月2日4部門に分かれ、それぞれ特技を活かしてイベントのスタートです。お祭りを思わせるいでたちの雰囲気をも出し出していた「太鼓でドン」では、太鼓の音が制限されたことが残念。オランダの学生が法被(はっぴ)を着、バチを持っている姿に皆で感動。



アロマでリフレッシュ

「やってみよう車椅子体験」では男性陣の力量発揮。「アロマでリフレッシュ」もそれぞれ特長を生かしての活動で、列を作って順番待ちのようでした。視覚に障がいのある学生もマッサージで参加。「サロン&手作りひろば」では折り紙の雛人形作りは時期的なこともあって、子ども連れのお母さん方に大人気で、これも順番待ちでした。

整理券を数えて、大勢の方が参加して下さったことが分かり、成功裡に終わったことに満足したイベントでした。

担当：石井 房江

### 同窓会の窓



平成16年に開設された江戸川総合人生大学は今年に10期生を迎えます。2年間の学びを終え現在までに約400名の卒業生が同窓会に入会し、地域の皆様をも巻き込んで地域貢献に頑張っています。しかしながら区民の皆様にはどの程度ご理解を頂いているか疑問が残ります。

7月以降は人生大学及び同窓会主催のイベントが続きますので、この機会に人生大学を区民の皆様にご紹介頂く事が大切です。在校生と卒業生の活動内容を知って頂くために、そしてイベントに参加して頂く為に私たちはあらゆるツールや機会を通して発信する必要があります。同窓会としては「いつでも

どこでも人生大学の存在感をアピールしよう」を念頭にトライを始めました。ホームページや広報などが掲載しただけでは十分ではなく、Face to Faceをベースに地域の会合やイベントでPRをし、たくさんの方々に理解して頂き、志を持った多くの新入生を迎え、将来は一緒によりよい社会作りの為の課題に取り組み、解決していく良い循環を作りあげたいと思います。

同窓会会長 川瀬 隆弘 (国際4期)  
同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>  
人大ボラ連メールアドレス [jindaiboraren@yahoo.co.jp](mailto:jindaiboraren@yahoo.co.jp)

### 編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

【8期生】 大塚恭子、鳥羽山晟 (まち) 寺田佳子、土井芳夫 (国)  
大西奈津女、佐久間鐵雄 (子) 石井房江、八武崎美子 (介)

【9期生】 犬飼キヨ子、衣川章嗣 (まち) 菅谷洋子、峯岸和英 (国)  
黒山三千代、戸田チ子、水野真紀子 (子)  
榎本清一、笹田直子 (介)

### 編集後記

夏がやってきました。クールビズもすっかり定着してきましたが、皆様方もそれぞれ省エネの工夫をされていることと思います。8期生は7月27日の大学祭で大学生活が実質終了します。編集委員の仕事はもう少し続きますが、一抹の寂しさを感じるとともに残りの時間を大事にしたいと思うこの頃です。

さて本号では、多彩な講師の先生方の魅力を紹介させていただきました。江戸川総合人生大学への皆様方のご理解を深めて頂く一助となれば幸いです。先生方におかれましては、各分野でお忙しくご活躍されているにもかかわらず、快くインタビューに応じて頂き感謝しています。

編集長 土井 芳夫(国際8期)

# ひと あい えどがわ

No.23

発行日 / 2013.7.1  
創刊日 / 2007.4.10

EDOGAWA  
SINCE 2004  
SOUYOU-JINSEI-DAIGAKU

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

多彩な講師陣にインタビュー。先生方の魅力に迫ります。



葛西臨海公園・大観覧車(写真:まち8期 鳥羽山)

## 江戸川総合人生大学 新入生募集!

今年10月から始まる第10期生を募集しています。  
あなたの経験を地域の力にするために学んでみませんか?

【募集期間】 平成25年7月1日(月)～平成25年8月20日(火)

【募集人数】 各学科 25名 計100名

【申込資格】 区内在住・在勤・在学の方

【修学期間】 2年間

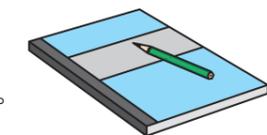
【授業料】 3万円(1年間)  
※実地授業時の入館料、実費分をご負担いただく場合があります。

【申し込み】 区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などで配布している「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項を記入の上、江戸川総合人生大学事務局  
〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ へ持参または郵送してください。

【問合せ】 ☎03-3676-9075

学科名	授業実施曜日、時間
江戸川まちづくり学科	金曜日 10:00～12:00
国際コミュニティ学科	水曜日 10:00～12:00
子ども・子育て応援学科	火曜日 10:00～12:00
介護・福祉学科	火曜日 14:00～16:00

※学校教育法等で定める正規の大学ではありません。



*H. Shigesugi*

重杉 浩先生

[江戸川まちづくり学科]



### 子ども達や、人生大学学生へ伝えたいこと

子どもの頃遊んだ自然が、開発等により次第に少なくなっていく中、自然保護の精神は子ども時代から育成すべきと、平成12年「子どもの水辺再生プロジェクト」が創設されました。江戸川流域で初の登録地として、平成20年にオープンした「篠崎ビオトープ」は、小学校・江戸川総合人生大学・エコセンターや障がい者団体等、皆さまのフィールドワーク場として毎年活用されています。

生まれ育ったふるさとの景色が壊れることが忍びないという思いから、子ども達が気持ちよく、楽しく遊べる場（ふるさと・自然）を残し、引き継いでいくことが使命と考えたことが、今の活動の原点です。

今まで様々な経験をされてきた人生大学の皆さんが、新(さら)な心で、再び何かを始めようとする意欲や、何かを学びたいという心は素晴らしいことです。皆さんは、世の中を支えていく原動力の礎(原動力は子どもだと思っています)になっていると思います。

ビオトープには様々な状況の人々が訪れます。人々は自然の中では「様々な命」と繋がりがあ、同じ空の下で共に生きています。その「人々」の状況は、人生大学4学科に共通するものがあります。そんな4学科が何か一緒にワークできる機会をもち、つながりを深められると良いと日々考えています。

私は、世界で一番の親バカで、我が子が何より大切な宝物だと思っています。その宝物が社会へ出た時、笑顔でいられる世の中ってどんな「世界」でしょう？ 大切な我が子が、周りの人々と一緒に、心からの笑顔で共に暮らせる世の中だと思います。「世界全体が幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない。」宮澤 賢治

取材：鳥羽山 晟(まち8期) / 大塚 恭子(まち8期) / 犬飼 キヨ子(まち9期)

*K. Tanabe*

田辺 邦子先生

[国際コミュニティ学科]



### ボランティアで日本語を教える

子育てが一段落した時に、たまたま市が主催する日本語教室のボランティアに応募したのがこの世界に入ったきっかけです。

この活動を通じ、熱意や誠意だけでは足りない、知っておくべき基本的知識や技術がないと、せっかくの活動も無駄になってしまうことを痛感しました。また、日本語教室は、日本で暮らす外国人の方たちが日本語が出来ないせいで抱えている生活上の不利益を軽減するサポート活動なのだ、ということにも気がきました。

なにより重要なのは、サポートする日本人もそこに集まる外国人も背景は千差万別で、お互いの文化を理解する努力が必要になるということでした。

そこで教える側も謙虚にかつ好奇心を持って知識を広め続ける努力をしなければと一念発起し、大学と大学院で勉強を直しました。

ボランティア活動を「素人が善意でする活動」と捉えている方がいますが、これは違うと思います。持っている知識や能力を活用して地域社会に貢献することがボランティア活動だと私は考えています。

ボランティア同士の意識の違いが活動を阻害するというジレンマに陥っているのをよく見かけます。活動に先立って、「ボランティアとは何なのか」を考える機会が必要です。その点、江戸川総合人生大学は、志を持った人たちが、互いに切磋琢磨しながら必要な知識を獲得できる素晴らしい環境だと思っています…と熱く語っていただきました。

取材：大西 奈津女(子ども8期) / 佐久間 鐵雄(子ども8期) / 峯岸 和英(国際9期)

*H. Hayashi*

林 浩子先生

[子ども・子育て応援学科]



### 生活で活かされてこそ学問

授業が始まって間もない11月にご講義を頂いたので、私たちのことを覚えていらっしゃるかどうか多少不安でお聞きすると、「もちろんです!」と気さくな笑顔に向けて下さいました。講師を担当されるようになった経緯は、「この大学の立ち上げに関わられた宇田川久美子先生と大学院が一緒で、初めはゲストティーチャーとして、それがご縁で講師になりました。」

「大学の授業は難しいものというイメージがあるけれど本当はそんなことはなくて、皆さんが人と関わり合っている中こそ真実と真理があるわけで、理論というのや仰々しい感じがしますが、実際には実践の中しか理論はないんですよ。」と学問というものが生活から離れてはいけないこと、生活の中で活かされてこそ学問であると分かりやすくお話して下さいました。「学ぶということは、本当に本当のことを追い求めていくことだと思います。私がお話したことが本当か本当でないか、それを皆さんが検討していくことが学びであり、関心を持ち続けていくことが一学生ぶということ。」

受講生に期待することは「ご自分が歩いていらした道を振り返ってもらって、今だったらもっとうまく子育てができるのとか、あの時の自分はこういう思いだったんだと客観的にそこに向き合う。そうして自分の哲学を作っていくんだということに気付いて頂きたい、子どもたちにも伝えて頂きたい。親や大人自身が学び続けることで、『より善くいきていこう』とする姿を身を持って子どもに示していくことが何よりも大切です。」と私たちへの期待をのぞかせていらっしゃいました。

取材：穴戸 ティ子(子ども9期) / 黒山 三千代(子ども9期) / 水野 真紀子(子ども9期)

*Y. Sekiguchi*

関口 祐加先生

[介護・福祉学科]



### 介護は《する側》の問題が100%

認知症のお母様との日々を描いた映画「毎日がアルツハイマー」の監督である先生に、介護途上にある生活の「ボケたていいじゃない」と認知症のお母様を受入れ明るく生きる方法を伺う。

先生は「介護を必要とする人の苦しみや、本人がどうしたいのかを思いやるのが一番大切」とおっしゃる。

横浜に生まれ大学を卒業後、オーストラリアに留学、そこで映画製作を始められる。1989年に先生の監督デビュー作品「戦場の女性たち」がメルボルン国際映画祭グランプリをはじめ、数多くの賞を受賞。

お母様がアルツハイマーになり2010年に帰国を決断された。介護は《される側》の問題ではなく《する側》の問題が100%。《介護する》という言葉には、する側の目線に高さがある。その点、子ども等にはそれが無く、愛情のコミュニケーションができていくという。

先生は「アルツハイマーと言っても95%の脳はまとも。」お母様の意思を尊重しつつ、介護に積極的に介入される。専門的な知識を得つつ一人で抱えないオープンな介護を実施。家族皆でお母様と一緒に笑う介護が見えてくる。

現在の日本の介護保険制度は世界に誇れるすばらしいものとの事。

急激に変革のある現代社会に、高い学びと強い意志・行動力で多くの経験を積み活躍される先生。そのたくましく圧倒されるほどの力強さに感動。

丸っこく、にこやかな先生。これからも健康で多くの人々に先生の思いを発信し続けていきたいと思う。

取材：寺田 佳子(国際8期) / 石井 房江(介護8期) / 八武崎 美子(介護8期)

*K. Hosokawa*

細川 顕司先生

[みんなで創る安全・安心]



### 地域全体で子どもを守る

細川先生は文学部出身。東京消防庁入庁後は江戸川消防署勤務を振り出しに、機関誌の編集、防災教育センターでの指導などを担当され、現在は公益財団法人市民防災研究所の特別研究員として、国や地方自治体の委員をされる一方、講演で全国をまわられるなど活躍中です。

阪神大震災では、何度も現地に足を運び、多くの人に会って様々な問題に気づきました。行政ができることには限界があり、自分の身は自分で守るしかないのです。そのためにも日ごろの近所付き合いを大切に、いざという時にお互いが協力できるようにしておかなければいけません。相互に知っていることを伝えあい、情報の空白をなくすることが大切です。

東日本大震災では、津波で多くの方が犠牲になり、家などが根こそぎ流されました。しかし、時間がたつと防災の意識は薄くなり、大地震や津波の恐ろしさを忘れてしまいます。海の近くに住まない決めても、作業小屋を作り、人が住むようになり、また津波の被害を受けるということを繰り返してきています。私たちは過去の教訓に学んでいないのです。

日本人は昔から「空気と水と安全はタダ」と考えてきました。しかし、それらにはコストがかかります。被災地の復興は全住民の意志が一致しないと進まない事業ですが、防災とコストのバランスをみんなで議論する必要があります。これは被災地だけのことではなく、災害列島に住む私たち全体の課題なのです。

東日本大震災では首都圏も大パニックになりましたが、私は世代によって対応の違いがあったということに気づかされました。高齢者を地域でどう支えるかも大切な課題ですが、「地域全体で子どもを守る」ことも考えていかなければならないと思いますと、真剣に語っていただきました。

取材：衣川 章嗣(まち9期) / 榎本 清一(介護9期)

*H. Sasaki*

佐々木 洋先生

[地球環境を考える身近な活動]



### 人生の愉しみをふやして欲しい

佐々木先生の人生の一番初めの記憶は、二歳の頃、植木鉢をひっくり返してダンゴ虫と遊んだこと。以来、ギンヤンマ、水辺の生き物に魅せられ、小岩近辺の原っぱや水辺を遊び場として育ってこられた。ご専攻は英語ですが、昆虫好き、自然好きが嵩じて、プロナチュラリストに。日本では数少ない自然案内人ということ。

一年を通じて、NHK等のテレビ番組への出演のほかに、日本中に脚を運んで講演や自然案内をされ、今までに延べ約37万人の人に話をされました。その対象は小さな子どものほかに、小・中・高校・大学の児童・生徒・学生とその父兄、国内外航空会社の乗務員、警察官、デパート、企業など多岐に及びます。どのような職業でも自然との関係を抜きにしてはあり得ないというのが先生の考えです。

先生は、自然観察を通して、自然好きな人を増やしたい、人生の愉しみをもう一つふやして欲しいと願いながら話をされます。自然観察の効用は①健康的②センスを磨く③知識がつくと三拍子揃ったもの。

一之江境川親水公園の、先生監修の「カンタン(邯鄲)の里」では、「草刈・種入れをしない」、いわゆる「何も引かない・何も足さない」の法則が守られています。先生のお話を伺った「カンタンの里」の中にある「それ池」という池の辺には紋白蝶が飛び交い、白い茅(ちがや)が風に揺れていました。因みにこの里と池の命名は、先生とのお仲間たちがされたそうです。

日焼けした額に木洩れ日を受けながら「大学の皆さんと一緒に水辺を歩くと、講義をするというより、人生の先輩たちから教えられることの方が多いです」と静かに語られました。

取材：土井 芳夫(国際8期) / 榎本 清一(介護9期) / 菅谷 洋子(国際9期)

## 第8回 江戸川総合人生大学祭

学び 心れあい 豊かな心 ~笑顔ではじまる“人との和”~

**【日時】**平成25年7月27日(土)午前10時～午後4時  
**【場所】**タワーホール船堀(1階展示ホール・3階産業振興センター)入場無料  
 展示や体験コーナー、ステージで大学での学びの成果を発表します。  
 大人から子どもまで楽しめる催しです。学生一同、ご来場をお待ちしております!

## 初夏のイベントに参加しませんか!!

特定非営利活動法人えどがわエコセンターは、一人ひとりが環境について学び、行動するために立ち上げたNPO法人です。区民・事業者・行政や教育機関など、区内のさまざまなセクターが参加して自然環境からごみ問題、地球温暖化防止等あらゆる環境課題に取り組み「日本一のエコタウン」の実現を目指します。

日程	時間	イベント名	会場	内容
1 7月6日(土)	9:30～12:30	東なぎさクリーン作戦	葛西浜公園東なぎさ	普段は入島できない東なぎさへ上陸し、漂着ゴミ回収を行い貴重な自然環境を守る活動を行います。野鳥や水生生物の宝庫で観察もできます!
2 7月21日(日)	10:00～14:30	荒川五色池でザリガニ釣り	荒川中土手五色池	身近な自然の中で、ザリガニ釣り・昆虫さがしなどが体験できます
3 7月26日～28日	2泊3日	えどがわ自然学校 in 鶴岡 友好都市鶴岡で自然体験満載の旅	山形県鶴岡市	友好都市である鶴岡市で海あそび・農業体験・羽黒山散策など盛りだくさんの企画復活です

詳細・お問い合わせは / 特定非営利活動法人えどがわエコセンター 電話:5659-1651 FAX:5659-1677 メール:edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp